

概要

iSCSI Enterprise Target は GPLv2 で公開されているフリーなソフトウェア iSCSI ターゲット。本体の他に、カーネルロードブルモジュール `iscsi_trgt` が必要。

以下、Squeeze で確認済み。

インストール

`iscsi_trgt` モジュールは dkms のソースパッケージが用意されているので、それを使うと簡単にインストールできる。

iSCSI Enterprise Target の本体のパッケージ名は `iscsitarget`。

`iscsi_trgt` モジュールの dkms ソースパッケージ名は `iscsitarget-dkms`。

```
# apt-get install iscsitarget iscsitarget-dkms
```

dkms ソースパッケージをインストールすると、自動的にコンパイルしてくれて `depmod` まで完了しているので、完全一発インストールできる。

設定

`/etc/iet/ietd.conf`

`/etc/iet/ietd.conf` を開き、公開するターゲットの IQN・LUN・ストレージデバイスを登録し、オプションを設定する。

Target 節で設定する。

```
Target iqn.2001-04.net.iscsitarget:iscsi1.mynet.local
Lun 0 Path=/dev/sdb,Type=fileio
```

- ・ Target キーワードの後に、IQN を指定する。IQN は自分で一意のものを作成する。
- ・ Lun キーワードの後に LUN を指定し、Path と Type を指定する。
 - ・ Path で指定できるのは、ブロックデバイスまたはファイル。これがこの LUN で提供される論理デバイスになる。
 - ・ Type は `fileio` (デフォルト) か `blockio` の二択。後者はページキャッシュを介さないダイレクトブロック IO を実行する、とのこと (`man 5 ietd.conf`)。iSCSI ターゲットデバイス自身のページキャッシュを使いたくない・使う必要が無い場合に選択するようだ。
- ・ その他のオプションについては `man 5 ietd.conf` 参照。

`/etc/default/iscsitarget`

`/etc/default/iscsitarget` を開く。 `ISCSITARGET_ENABLE` の値が `false` になっており、このままだと `ietd` デーモンが起動しないので、`true` に変更して保存する。

```
ISCSITARGET_ENABLE=true
```

これで `/etc/init.d/iscsitarget start` すれば `ietd` が起動して、`ietd.conf` で指定した LU の提供を行うようになる (`/etc/init.d/iscsitarget` の中で `modprobe iscsi_trgt` を行っているなので、手動で `modprobe` する必

要は無いい)。

Debian では、導入したデーモンは基本的に、OS 起動時に自動起動するようになっている。